



高原の風だより

2021（令和3）年4月 発行 <第20号>

木曽町新庁舎・防災センターが完成

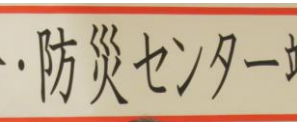
～地元産の木材をふんだんに使用～

令和元年度から工事を行っていた木曽町役場本庁舎・防災センターが完成し2月22日、現地で完成式が行われた。建物は木造一部鉄鋼の平屋建て、延べ床面積は約2772㎡、全長は108mにも及ぶ。地元産の木材をふんだんに使用しているのが大きな特徴だ。工事費はおよそ16億3700万円で、このうち14億6670万円は町債（合併特例債）が充当されている。4月5日には開庁式があり、木の香漂う新庁舎での仕事がスタートした。



完成した木曽町役場本庁舎・防災センター

地元産の木材 12000本使用 建物の注目すべき点は、木材は全て木曽郡内産のヒノキやサワラ、カラマツなどを使用していること。その数は12000本にも及ぶ。また、伝統的な「出し梁造り」工法を用いている点も特徴の一つだ。



環境にも配慮 建物の冷暖房は、温水プールなどでも使用している木質チップバイオマスボイラーを導入。伐採された丸太を全て無駄なく使用するなど、環境へも配慮している。

ワンストップ窓口を実現

4町村合併以来、利用してきた仮庁舎は手狭で使い勝手も良くなかった。

完成式であいさつする原町長 また、保健福祉課は保健センターに、教育委員会は文化交流センターに事務所があり窓口が異なっていた。今回、本庁へ集約することによってようやくワンストップ窓口が実現、市民の利便性の向上が期待されている。



新庁舎の事務室の様子

～ 納税者の気持ちに寄り添っているか ～ なぜ少ない？ 木曽町のふるさと納税

～増やす努力をしているか～

南信州 根羽村

森林が村の総面積の92%を占める根羽村。
そこには矢作川の源流があり、あちこちから湧き水が出ています。
「豊かな森林」と「きれいな水」という村の財産が、
根羽村でしか実現できない特産品を生み出します。



生産者が丹精こめて安全、安心と
愛情をもって作った商品をお届けします。

根羽村のふるさと納税のポータルサイト(ホームページより)

町長「この金額で十分と考える」

～木曽町は 1339 万 6 千円～

一般質問では最初に「我が町の納税額（寄付額）1339万6千円は余りにも少ないのではないかと十分と考えるのか」と町長に質問。すると以外にも「十分だと考えている。他の町村と比べて少ないからおかしいという考えは持っていない」と想定外の答弁があり、「コロナ禍で税収も減っている中、ふるさと納税は貴重な財源である。現状は決して十分ではないので今後、増えるように精一杯努力していきたい」というような答弁を想定していた私は大いに戸惑った。ただ、その後担当課長から「増やすように努力したい」、副町長からは「町の魅力や特産品などをしっかりPRすれば納税額を増やすことは可能。ふるさと納税は貴重な財源であり、地場産業の振興などにもつながるので今後、ホームページを改良するなどしっかり取り組みたい」と前向きな答弁をいただき安心した。

根羽村は、1億8694万9千円

～人口は 848 人～

納税額が単純にその自治体の人口や財政規模に比例するとは思わないが、一定の相関関係にあるのではないと思う。県内の他町村と納税額を比べて一喜一憂する必要はないし、順位を競うことも考えていない。ただ、その実態を直視し、客観的に把握することで我が町の現状を捉え、手段を講ずることはとても重要なことだ。

県下の状況を見ていて驚いたことは、人口も財政規模も我が町よりもはるかに少ない小規模自治体が頑張っていることだ。下伊那郡に根羽村という小さな村がある。人口848人（木曽町の12分の1）財政規模21億円（同5分の1）にもかかわらずふるさと納税額は1億8694万9千円。なんと我が町の1.4倍余りにもなる。

これはきっと災害か何か特別な事情があるに違いない、と思ひ役場へ電話をして聞いてみた。「特別な事情はありません」という返事。ただ、指定管理に出している観光施設「ネバーランド」へ業務委託しているとのこと。やはり取り組む意欲ややる気の問題なのだろうか。根羽村の取り組みに大きなヒントが隠されているのでは、と考えた。

我が町と根羽村との違いは何か

～ホームページを見て歴然～

令和元年度 ふるさと納税額一覧表(長野県町村)

フルーツや海鮮、牛肉をはじめ地元企業の工業製品など高価な返礼品を用意した自治体に寄付が多く集まる傾向があるのは確か。では根羽村はどうであろうか。どう考えても我が町より農産物も地場産品も少ない。どこが違うのか？根羽村のホームページを見て、その歴然たる違いが見えてきた。そこで大きく3つの問題点を指摘したい。

① ホームページから返礼品画面へのアクセスが悪い。

根羽村 1クリックで返礼品画面へつながる。

木曾町 1クリックで「ぬくもり基金の手続きについて」の画面→「お申し込みはこちらから」というところをクリック→ふるさと納税特設サイトの画面になる→写真をクリックしても反応なし。上の「寄付をする」をクリックする→会員ログインの画面が出て「特設サイトを經由して寄附を行うためには会員登録が必要です」の文字。簡単に返礼品画面に到達できない。(後から特設サイトの下に「特典のご紹介」の小さな文字があり、ここをクリックすると返礼品画面につながる事が分かったが、全く分かりづらい)

② 返礼品の数が少ない。

根羽村 返礼品数 168

木曾町 // 31

木曾町は地酒や自然水、そば、饅頭、漬物、野菜、発酵食品、木工品など根羽村よりはるかに多くの特産品や地場産品があるのに、返礼品の数は根羽村の5分の1以下。

③ 写真やキャプション(説明)が良くない。

根羽村 写真がきれいで興味をそそる。キャプションも的確。(例)トウモロコシの場合。サニーショコラ 10本入り約3kg、5千円送料無料、と紹介している。

木曾町 写真に魅力がない(迫力がない)。キャプションも不十分。(例)すんきの場合。写真はすんき1袋、15000円、無塩乳酸発酵漬物という情報のみ。何袋もらえるのかも分からない。→写真をクリックすると180g6袋とある。すんきを器に盛りつけた写真も併せて使うなど写真やキャプションに工夫が必要。



サニーショコラ 10本入り 約3kg 5000円 送料無料

(注) 現在、木曾町のホームページから返礼品画面へのアクセスが以前よりスムーズになっています。

順位	町村名	金額(千円)	順位	町村名	金額(千円)
1	豊丘村	618,571	31	立科町	23,396
2	小布施町	472,139	32	南牧村	23,180
3	軽井沢町	384,673	33	天龍村	20,722
4	白馬村	324,624	34	長和町	20,675
5	小谷村	255,454	35	南木曾町	20,259
6	山ノ内町	249,229	36	下諏訪町	19,497
7	高森町	200,799	37	小川村	17,240
8	根羽村	186,949	38	筑北村	14,633
9	宮田村	186,855	39	木曾町	13,396
10	阿南町	163,955	40	小海町	13,000
11	飯綱町	160,000	41	木祖村	11,494
12	坂城町	148,572	42	王滝村	10,569
13	喬木村	137,044	43	山形村	9,395
14	南箕輪村	132,427	44	青木村	8,943
15	富士見町	131,651	45	大鹿村	8,300
16	辰野町	116,628	46	信濃町	8,162
17	野沢温泉村	111,074	47	平谷村	8,157
18	御代田町	109,001	48	下條村	6,746
19	松川町	107,165	49	売木村	6,588
20	池田町	62,540	50	南相木村	6,581
21	箕輪町	42,064	51	原村	5,968
22	飯島町	41,779	52	朝日村	4,228
23	松川村	38,187	53	上松町	3,162
24	生坂村	33,007	54	川上村	2,899
25	阿智村	32,170	55	中川村	2,460
26	木島平村	29,445	56	泰阜村	1,165
27	佐久穂町	26,404	57	北相木村	1,010
28	高山村	24,814	58	大桑村	65
29	麻績村	24,281			
30	栄村	23,977			

資料:総務省ふるさと納税ポータルサイト



すんき 15000円 無塩乳酸発酵漬物

はりきりご長寿列伝

かんた ふくじ
神田 福治 さん (91歳・伊那市境) ⑱

このコーナーでは高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。今回は伊那市境の神田福治さんです。なお、この様子は1月26日、NHK テレビのイブニング信州で放映されました。



神田 福治 さん

急斜面をいかに安全に滑るか ～スキーにまぐれはない～

木曾福島スキー場で1月11日、平沢スキーマソッドを学ぶ会が開かれた。郡内や塩尻などから会員10人ほどが集まった。そのほとんどが70代を超える高齢者だ。赤いウエアに身を包んだ指導者はさらに高齢で、その一人神田福治さんは91歳。伊那から自分で車を運転して来た。



指導する神田さん

この日は11時から2時間余り3つのグループに分かれて技術指導が行われた。神田さんは先頭に立ち、さっそうと自分の滑りを見せながら、途中で何度も立ち止まって分かりやすく丁寧に、そして時々冗談を交えながらアドバイスを繰り返していた。

国の出先機関の食糧事務所で長く働いたという神田さん。21歳の時に白馬西山スキー場で初めてスキーを履き「曲がりなりに何とか滑れたことで夢中になった」と当時を懐かしむ。

以来、スキー技術の向上に努め全日本スキー連盟公認指導員や同連盟A級検定員などの資格を取得。50年ほど前には地元の中ア山麓スキー学校を立ち上げたほか、県スキー連盟の理事などスキーの普及のために数々の要職をこなしてきた。現在、同スキー学校の名誉校長を務めている。

伊那市内の自宅で長男夫婦と3人で暮らしている神田さん。今でも地元の伊那スキーリゾートへは毎日通い、その数は年間100日にもなるという。「急斜面をいかに安全にうまく滑ることができるか」と探究心は衰えていない。「ゴルフにはまぐれがあるが、スキーにまぐれはない」ときっぱり。

スキーの魅力について尋ねると「健康のためにもスキーを通じて体を動かしてもらいたい。肌で風を切る爽快さは最高です」とおじいちゃんの笑顔になった。

私の本棚

『私の公務員生活』～地域づくりにチャレンジ!～

(大目富美雄 著・木曾オールプリント株式会社)



私自身のエッセイ集。過疎化が進み人口が減っていく中で、役場職員として地域の活性化に向けて取り組んだことなどを中心にまとめた。仕事の話や家族の出来事、海外への視察研修、信州大学大学院への入学、町村合併、町長選挙への立候補、今の郵便局での仕事等など。A5版230ページ。定価(税込1000円)

購入希望者はメールかFAXで下記へ。やま路書店でも販売中です。



編集後記

今年は本当にさまざまな自然災害や考えられない事件、事故が続いています。今回の新型コロナウイルスも同様で、世界的な感染拡大は全く想像を絶します。国内でも依然として感染拡大が収まらず、日々の暮らしや経済に大きな影響が生じています。

自分たちの地域づくり活動も「三密」を避けなければならず、去年は草刈りと歩道の美化活動以外は全くできていません。一日も早くコロナが終息し「当たり前」の日常が戻ることを願うのみです。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com